

いずみニュースレター

令和7年1月発行 第30号

人生を楽しく生きる

理事長 鈴木久弥

皆様におかれましては、新春を清々しい気持ちでお迎えのこととお慶び申し上げます。

本年も感染症についてはコロナウイルスも心配されますが、それ以上にインフルエンザが猛威を振るっていますので、十分に注意が必要になるかと思えます。

はじめに、普段から仕事をしていく上で、また、日々の生活をしていく上で大切なことをお伝えしたいと思います。

一つがコンプライアンス、次にガバナンス、最後にプライオリティーとなります。

はじめにコンプライアンスですが、「法令順守」倫理とも言いますが、ルールやモラルを守りましょう。ということです。ルールは規則や決まりのことでモラルは道徳、善悪の判断ということですが、先ず、はじめに一番やってはいけないこと、業務上横領です。お金の件は、様々あるかと思えますが、なかなかなくなる。普段からテレビなどでも横領や着服のことが頻繁に出ています。横領と着服の違いですが、着服はニュースなどでも使われる一般用語で、横領は刑法でも規定されている法律用語で、横領も着服も同じ意味で、ともに他人の財産を自分のものにする、という行為をさします。当然、懲戒免職となります。

次に、交通ルールですが、特に飲酒運転、

酒酔い運転は5年以下の懲役又は100万円以下の罰金

酒気帯び運転は3年以下の懲役又は50万円以下の罰金

厳しい罰則ですが、そんなものではない、当然、懲戒免職です。ここで、注意が必要なのは、自転車ですが令和6年11月1日から自転車も罰則が適用されるようになっています。

このコンプライアンスですが、日常の中で、より具体的には、細かくなりますが、出勤、帰る時はパソコンにはロックをかける。ある企業がサイバー攻撃に会いましたが、業務上も使い方は、気を付けないといけません。他には、機密情報が含まれる可能性がある話は外ではしてはいけません。ということがあります。守秘義務は大切なことのひとつだと思います。

次にガバナンスですが、日本語では「統治、管理」と言っているもので、健全な経営を行うための管理体制のことです。統治というと難しいと感じるかと思えますが、管理をする者の意志や考え方が全体に伝わっているかということです。

最後に、プライオリティーですが、日本語では「優先順位」と言っているもので、ビジネス上とか業務だけでなく、日常シーンでもあることで、何から先にやるか、の順番という意味ですが、単に順番ではなく、重要性が高いから、先にやるべき、というニュアンスで、重要性とか緊急性を考えると、重要かつ緊急性が高いものはプライオリティーが非常に高くなる。ということです。

プライオリティーが高い仕事、優先順位の高い仕事は、優先的に早く片付ける必要があります。ということになります。

一方、プライオリティーが低いことは、今すぐには手を付けなくていい、後回しにしてもいいということです。やることがいっぱい手が回らないと、精神的にストレスになりますが、プライオリティーがしっかりしていれば、ストレスがかなり軽減されますので、日常生活のなかでもこのプライオリティー、優先順位は大事だと思います。

コンプライアンス、ガバナンス、プライオリティー、この3つをしっかりと認識して日常の中で生活をしていくことが大切だと感じています。

次に、小平特別支援学校の生徒と懇談する機会があり、その時感じたことを書きたいと思います。

「卒業後の進路や将来を考える」というテーマで、ある生徒が話したのは、「ひとりの人間として楽しめるようなバリアフリーになってほしい。」ということでした。道路などは社会の責任ですが、すべての生活や活動についてのバリアフリー（障害となるものを取り除く）は、社会福祉法人の責務であると考えます。障害を持っている方が普通に生活する。ひとりの人間として楽しめる社会をつくることが重要です。

最後に、生きていくのは難しい象徴的な小説があります。夏目漱石の「草枕」の冒頭で、智に働けば角が立つ。情に掉させば（さおさせば）流される。意地を通せば窮屈だ。とにかく人の世は住みにくい。解釈すると、理性ばかりでは他人と衝突し、情に流されれば足元をすくわれる。意地を通しても窮屈で、まったく人の世の中というものは住みにくいものだ。というのですが、これには続きがあります。住みにくさが高（こう）じると、安い所へ引き越したくなる。どこへ越しても住みにくいと悟った時、詩が生まれ、画（え）が出来る。人の世を作ったものは神でもなければ鬼でもない。やはり向こう三軒両隣にちらちらするただの人である。ただの人が作った人の世が住みにくいからとて、越す国はあるまい。あれば人でなしの国へ行くばかりだ。人でなしの国は人の世よりもなお住みにくかろう。解釈すると、もうどこへも行く場所がないと悟ることが大事で、結局、どこに越しても住みづらく、人が作った世界でない場所に移っても、もっと住みづらくなる。それなら、この住みづらい世の中を、束の間でも住みやすい空間にする以外にない。というものです。

皆様におかれましても、この人生の中で生きていくしかない、楽しんでいくしかないと思えるものと思います。

第10回 いずみコンサート

令和7年1月7日に、いずみコンサートを開催いたしました。新年早々の法人主催行事でしたが、利用者・ご家族様、法人関係者様のご協力をいただき、素敵なコンサートになりました。

今年のコンサートは箏演奏「邦楽アンサンブル彩音」様に来ていただきました。

彩音様は聖徳女子高等学校箏曲部出身の方々に集まり、様々なコンクールやイベントでご活躍をされている箏のアーティストチームです。利用者様に新年を感じられる音に触れて頂くのも良いかと思い、法人職員の紹介で御縁をいただきました。

今回のコンサートで初めて箏の実演を体験された方も多数いらっしゃいました。私もその一人でしたが、目前で演奏される箏の音色は想像よりも凛とした美しい音で、心が洗われるような感覚になりました。周りを見てみると、演奏前は各々普段通りに過ごされていた利用者様が、静かに箏の音色を感じている様子を伺えました。また、彩音様のご配慮により利用者様が親しみやすいジブリなどの楽曲も演奏していただき、明るくポップなメロディが箏のイメージを一変しました。今回のいずみコンサートも好評をいただき、早くも次のコンサートを楽しみにされているお声をいただきました。

いずみコンサートは今年で記念すべき10回目を迎えることができました。10年以上継続して開催行えたのもコンサートを楽しみにして下さる利用者様のお声があったからです。次回以降のコンサートも期待に応えられる素晴らしい行事にしていきたいと思えます。



(あゆみの家成人部 増田)

今回のニュースレターのテーマは『利用者の意思を尊重する支援』です。職員会議等で「何を大切に支援しているか」の話し合いを行いました。意思決定支援に関する大切な内容なので、各事業所の記事を読みながら、あらためて考えていけたらと思っています。

利用者さんの想いを感じとること

あゆみの家成人部

今回のテーマである「利用者さんの尊厳、意思の尊重」とは何かを成人部職員はどう考えているのか話し合いました。

成人部は重症心身障害者の生活介護事業です。利用者さんの身の回りの事や運動レクリエーション、創作などの活動を支援しています。支援の中で特に心掛けていることは利用者さんとコミュニケーションを取る事です。

どのような支援でも、利用者さんと対話を行わずにすれば、支援者の一方的な都合になり、利用者さんの尊厳や意思を尊重していることにはならないと考えています。成人部の大多数の利用者さんは会話だけのコミュニケーションを行う事は難しいのですが、代わりに表情や体の動かし方、声の出し方、強弱などで私たちに気持ちを伝えてくださいます。利用者さんの発信に気付き、お一人おひとりとの対話方法を学び、お互いの気持ちのやり取りを重ねながら、利用者さんの想い

を汲み取ることが意思を尊重し、尊厳を守ることに繋がっていると考えます。

私たち成人部はこれからも利用者さんの想いを尊重した支援を心がけて参ります。



(増田)



利用者様の自己選択・自己決定を希求して

ライフサポートつばさ

つばさでは生活面や日常の活動を通じて選択ができる環境や場面があります。例えば、朝、活動が始まるまでの間、ホワイトボードの活動内容を見ながら、「今日はどうしようかな?」「疲れているからゆっくりする」「面白そうだからやってみようかな」など、ご自分で決めたり、職員と考えたりしています。また、話しを聞いて欲しいと相談する方もいらっしゃいます。別の場面では、気分が乗らない方に「駄目」と言ったり、無理やり物事を進めたりするのではなく、気持ちが向いた時に行っていただくこともあります。

このように、つばさの皆さんが大小問わず、何らかの方法でご自分の思いを発信しています。それは日常的につばさが安心できる環境であったり、普段からコミュニケーションによる信頼関係が築けているからこそその意思の表出なのではないかと私は思いました。これからも表情や態度・雰囲気の変化を読み取り、思いを汲み取ったり、待つ支援などを行うことで、小さな意思の表出に気づき、真摯に向き合い、意思を伝えられる環境を提供していきたいです。

障害の重さや言葉の有無に関係なく、普段の小さな意思の尊重の積み重ねが意思の決定に、そして、より豊かな生活を送ることへと繋がると信じています。

(大村)



子どもの意志を知る、気付く事

ひまわり（児童発達支援）

人と良い関係を作るには信頼関係が必要です。その為には真摯に相手と向き合う事、誠実である事、そして時間をかける事はとても大切です。

ひまわりの子ども達は、自分の感情、要望を私達職員に表出してくれます。子ども達の感情表出は小さい事も多く、言葉で伝える事が難しい子どもが多数です。言葉を介さなくても日々向き合ってきた積み重ねで訴えに気付き、応えられる事も多々あります。意志表出をしても、相手が気付き、応えてくれなければその相手に気持ちを伝える事をだんだん諦めてしまうかもしれません。日々しっかりと子どもと向き合い、子どものサインに気付く事はとても大切だと感じています。

子ども達が伝えてくれる事を少しでも正確に捉え気持ちに応える、そして時には一緒に解決法（怒りを鎮める、不安を取り除く等）を模索していく事を重ね、子ども達との信頼関係は築き上げていくと感じています。

ひまわりの子ども達は心も身体も成長段階です。その大切な時期を共に過ごす私達職員の責務はとても大きいと常に心に留め、これからも療育を行っていきます。（西島）



子ども達的意思を尊重する活動とは

ひまわり（放課後等デイサービス）

ひまわり放課後等デイサービスは小学1年生～高校3年生までの幅広い年齢の子ども達が通っている中で、障がいの度合いや年齢によって理解力やコミュニケーション能力が大きく異なるため、一人一人に合わせた支援を大切にしています。子ども達的意思を尊重しながら活動を提供しようと日々心掛けていますが、趣味も性格も違うたくさんの子ども達に対して『全ての子どもが満足できる活動』は実現が難しいため、以下の4点を大切にしています。

1. 興味のある活動の提供

季節制作、運動遊び、音楽遊び、散歩など、様々なプログラムを組み合わせ、何回か通っている中で好きなプログラムを楽しんだり、色々な体験を通じて好きな事を見つけたりできるようにしています。

2. 無理強いをしない

活動内容によっては参加したくない児童もいます。もちろん誘ってみますが、嫌な時には無理に入ってもらふ事はせず、個別活動を展開します。もちろん途中参加も大歓迎なので、みんなが盛り上がっている様子を見て、気にしている様子があればまた誘ってみます。苦手なものでも「友達と一緒になら楽しく遊べた」というエピソードは少なくありません。

3. 子ども達の「やりたい」を実現する。

日々の活動で「やりたい」「やりたくない」を選んでもらうのはもちろんですが、他にもクイズ大会、音楽セッション、昼食買い出し体験、動物園遠足など、やりたい事を言ってくれた時は、なるべく活動に取り入れるようにしています。

4. 意思を汲み取るために職員スキルを磨く

おしゃべりが出来る子どももいれば、身振り手振りで意思を伝えてくれる子どももいます。中には目線やまばたきなど、とても小さい反応で意思表示を行う子どももいるので、職員間で日々子ども達の情報を共有し、少しでも正確に意思を汲み取れるように努めています。



買い出し体験



音楽セッション

放課後等デイサービスでの活動時間はとても短く、集団生活のため自分の思いが上手く通らない事もありますが、意思を表出し、実現していく経験を重ねて「自己効力感」「自己肯定感」を育てていけたらと考えています。（小山）

私達が、“大切”にしているもの

ホームヘルプひだまり

私達、ホームヘルプひだまりは「利用者様の意思の尊重を守る為に、何を大切に支援しているのか」について、アンケートを取りました。一部抜粋してご紹介させていただきます。

- 自分の意思決定が難しい利用者様には、支援者側は利用者様の表情などをよく観察し、小さなサインも見落とさないようにすること。支援者はたくさんの声掛けをすることが大切だと思います。
- 会話への返答がない利用者様に対しても、日常会話や語り掛けを忘れずに居心地が良い雰囲気を作り、利用者様に表現してもらいやすい環境作りを大切にこれからも支援していきます。
- 意思を尊重するということは大切だとは思いますが、利用者様の「意思」を、どう読み解くか、それをどう受け止めていくのかも大切だと思います。利用者様の表情や動作等々から、どう介助していくのが良いのかを、学んでいる様な気がします。
- 介助者側が急かすことなく、出来るだけ幅広い選択肢を分かりやすい形で示せればと考えています。

(北本)



利用者さんの意思の尊重を守るために、 私たちは何を大切に支援しているか

ファウンテン

利用者さんの尊厳を守り、その人らしい生活を支えるためには下記のことを大切にするようにと示されています。

- ① 傾聴と共感：気持ちや考えを否定せず、「どう感じているのか」「何を望んでいるのか」を理解する姿勢を持つ。
- ② 選択肢の提供：一方的に提案や指示をするのではなく、本人が納得できる形で選べる環境を作る。
- ③ 個別性の尊重：「その人にとっての最善」を考えた柔軟な対応を重視する。
- ④ 情報の透明性：隠し事をせず、オープンなコミュニケーションを心がける。
- ⑤ 自己決定の支援：必要に応じて助言やサポートを行いつつも、最終的な判断は利用者さんに委ねる。
- ⑥ 支援の継続性と一貫性：利用者さんとの信頼関係を築き、安心して依頼できる環境を提供する。

開始後1年少しのグループホームの職員として私たちは何を大切に支援しているのかの問いに対して、現状足りない状態もまだまだありますが、まずは職員皆で目指す方向は間違えずに取り組みたいと考えます。

利用者さんの意思に沿った支援の実現のために、一人で考えるよりは二人、さらに職場全体での検討、併せてご家族の考えや専門職、医療職の考え etc、様々な（異なった）意見を聞いたうえで支援をするという事を忘れないようにしたいと思います。今後も独断専行による判断は行わない様に注意していきます。（梶沼）



訪問歯科による摂食指導の様子（保護者さま・GH職員・通所職員と共に実施）

職員ひとこと

～利用者さんとの楽しかった思い出～



利用者 A さんをお迎えに行く時、ご家族の顔を見て「行ってきます」の挨拶を車内の窓越しにすることを覚えていただこうと毎日一緒に挨拶をしていました。最初は目の前の大好きな利用者 B さんの事に夢中でしたが、ある日から窓の外にいるご家族の顔を見るようになってくださいました。やれることが日々増えていく A さんにびっくりする事が多いです。声を出せない A さんですが、今では目や表情で感情が理解できるようになり毎日非常に楽しく過ごさせていただいています。

あゆみの家成人部 藤田

若い頃から車が好きでバイクや車で友人や家族とドライブに行ったりしていました。この仕事をす
るに当たって、利用者さんを乗せる時気を付けて
いることは、命を預かっている自負です。また、
雨の日など車が混んでいる時、また、朝の見送り、
帰りのお迎えをしている保護者さんへの気遣いも
忘れませんでした。そして送迎中楽しそうにして
いる人、お話しをしているのもいつもの光景です。
楽しく仕事ができる幸せな気持ちです。



ライフサポートつばさ 宇田川

「小さな達成感」



入職して半年が経過しました。なんとなく各利用者様の
特徴がわかり、日中のご様子も目に入るようになってき
ました。レクが終わると「今日の後藤さんのレク、楽し
かったよ！」とお声掛け頂けるようなこともあり、私は
『やった！』と嬉しさを覚えます。これからも考えを巡
らせながら支援していきたいと思えます。

ライフサポートつばさ 後藤

秋の遠足では、みんなで多摩六都科学館へお出掛けをし、医療機器の光や音、障がいなどによりプラネタリウムには「入りにくい」と感じている方も安心して参加できる「思いやりプラネタリウム」投影回に参加しました。初めてプラネタリウムを経験するお子さんもいましたが、保護者の方や職員と共に、ゆったりプラネタリウムを楽しみ、素敵な時間を過ごすことができました。きれいな星空と音楽をみんなで一緒に見られたことはとても良い思い出となりました。



ひまわり（児童発達支援） 奈須



大人の支援から子供の支援に異動し、子ども達の大切な時間を経験させていただきました。

日々の成長と喜怒哀楽を感じさせてもらっています。少しでも関わりを深く持ち、微力ながら私自身のできることで、皆さまに喜んでいただければと日々精進させていただきます。これからも、よろしく願いいたします。

ひまわり（放課後等デイサービス） 本間

1階の男性フロア支援に来て数か月が経過し少しずつ個性を見せてもえるようになりました。歌がお好きなムードメーカーの利用者さんがいます。他利用者さんに東京ブギウギのリクエストをして、思いがかなうと満面の笑みで嬉しそうです。懐かしい童謡の鬼のパンツは1区切り交互に歌います。

「おに～のパンツはいいパンツ！すごいぞ～！つよいぞ～！」

職員：ごね～んはいても破れない～

「すごいぞ～つよいぞ～」

職員：あなたもあなたもわたしも～

「みんなではこうおにのパンツ！！」

そうしている間に聞こえている方も手をたたいたり笑顔になったりするので朝夕のほっこり時間となっています。思い出というよりこれからもこうして時間共有していけたらいいなと思っています。



ファウンテン 菅田



以前事業所のイベントとして行っていたボーリング大会、昼食会、カラオケ大会は利用者様もヘルパーも笑顔でとても楽しかったです。

外食は現在進行形の楽しい事です。フレンチやイタリアン、フルーツパーラーやカフェ。美味しいものを食べている時間を共有できるのはこの上ない幸せです。

ホームヘルプひだまり 高橋

山崎製パン株式会社様よりご寄付をいただきました！！

ひまわりは山崎製パン株式会社様から、運動会に長年に渡りパンをご寄付頂いています。ご寄付頂いたパンを使用し毎年、パン食い競争を行っています。パン食い競争はご家族が最も楽しみにし、盛り上がる競技になっています。

今年度もたくさんのパンをご寄付頂き、競技は笑いと拍手が絶えない楽しいひと時となりました。参加賞としても持ち帰らせて頂き、ご自宅での語らいのきっかけになっています。山崎製パン株式会社様、ありがとうございました。



ひまわり(西島)

編集後記

各事業所の記事は、意思決定に関して“何を大切に
して支援しているか”を職員間で話し合った内容を
記載させて頂いています。

どんなに重たい障害があっても、一人の人として意
思を尊重していく。当たり前の事ですが、とても大切
な事を改めて考える機会となりました。

これからもより良い支援が行えるよう職員一同励ん
でいきたいと思ひます。

ひまわり(小山)

発行元 社会福祉法人いずみ
東京都東村山市富士見町3-3-4
TEL 042-394-1868

※記事内の写真についてはご本人、ご家族のご了承を得たうえで掲載しております。